

つながり

～やさしく かしく たくましく～

第1号

令和6年5月10日発行



山口大学教育学部附属幼稚園



「保育参加」の歴史について

副園長 高田和宜

始業式、入園式から一月が経ちました。花組側のサクランボを収穫し、これから園庭に様々な木の実が実っていきます。たくましく育っていく園庭の実のなる樹木のように、子どもたちもたくましく思い切り遊び、みのりの多い「楽しさいっぱい」の1年であってほしいと願っています。

さて、5月下旬から「保育参加」が始まります。「保育参観」ではなく「保育参加」です。我が子の園生活の様子を見に行く「保育参観」ではなく、保護者が保育者と共に、主体的な遊びを中心とする子どもたちの生活の中に入り、その場面ごとに必要な援助・指導を保育者と共に行い、その日目の前で起こった出来事を保育後すぐにミーティングで振り返り、今の子どもの育ちや学びについて省察し共有していくことが「保育参加」です。保育参加を通して、園の保育・幼児期の発達を理解していただき、共に子育てに取り組むパートナーとなっただけであればと思います。「保育参加」は30年以上前から行われている、山口大学教育学部附属幼稚園発祥の取組です。「保育参加・保育アシスタント」の取組について2004年に「もう一つの子育て支援 保護者サポートシステム」という書籍を当時の園長友定恵子先生（現名誉教授）と附属幼稚園職員とで出版し、当時保育学会界隈での反響はとても大きく、再版もされ、これを機に全国の附属幼稚園に普及していきました。その数年後、全国附属幼稚園研究大会で他園が「保育参加」の取組と成果を発表することもありました。すべて、山口大学教育学部附属幼稚園の取組がもとになっておりました。出版した当時は、様々な少年少女の事件が報道され、子どもの育ちそびれが指摘され、その親の在り方が問題視されていました。「子育て支援」は社会的な課題になり、国を挙げて「子育て支援事業」が取り組まれ始め、全国に広がっているときでした。その当時の「子育て支援」の中心は「保護者のニーズ」に応じた保育時間の延長や休日・夜間の保育、就学前の親子のための場の開設などでした。それに対して、当園では、保護者の育児負担の量的軽減では解決しないことがある。という立場でした。幼稚園、保育園などがいくら代わりに保育を引き受けても、保護者が成長変化していかなければ、親子関係の質は変わっていきません。親のための子育て支援だけでなく、子どものための保護者成長支援も必要だと感じていました。その中で私たちは、保育者という専門性を生かし、また園という場を生かしたもう一つの子育て支援、すなわち保護者の成長支援に取り組むことにしました。保護者が保育に参加することによって、子どもも育ち、同時に保護者が成長していく姿を見続けてきた研究的実践・検証の積み重ねが「保育参加」です。コロナ禍でその歴史が途絶えつつある現在、過去の栄光とならぬように、再び積み重ねていくつもりです。「保育参加後のミーティングの充実」と「保育アシスタントノートの復活」をします。

また、保護者と園がしっかりと向き合える環境づくりにも取り組みます。そこで、学校運営協議会からの提案もあり、子育てカフェ（子育てフリー座談会）を開始します。後日掲示でご案内をしますので、気楽にご参加ください。